

自動車に新たな柱に

秋田県が自動車産業振興の取り組みを加速させている。秋田の経済を支えてきた電子部品やデバイス産業は苦戦を強いられており、自動車を新たな産業の柱に育成していくことを喫緊の課題に位置付けている。中部の部品メーカー誘致を機に、さらに自動車産業の集積を進めていく現地の動きを探った。

メイドインアキタ 自動車産業振興に挑む

Made in Akita

悲願の誘致

「大橋鉄工さんに進出し
いただいたことに大変感謝している。」
(完成車メーカーと直接取引)

その①

産官学の連携

企業誘致へ支援制度充実

横手に大橋鉄工進出、活性化期待

国内大手自動車メーカー向けを中心に、エンジンやボディー部品などを製造する大橋鉄工(本社北名古屋市)のトップだ。秋田に降り立つのは初めてだったが、「視察先で出会った秋田県民の人柄、一生懸命さ、必死さ、真面目さにとても感動した」という。

その後、具体的な交渉を重ね、2015年10月に横手第二工業団地(横手市柳田)に工場進出することが

決定した。同年11月には、現地法人・大金も用意している。さらに、



自動車産業の集積が期待される横手第二工業団地



安全教育を受ける大橋鉄工秋田の社員

労働部産業集積課課長の猿田和三氏は、こみ上げの思いを抑えながら、静かに語った。

投資を低減

と2年と半年前。BCP(事業継続計画)対応で、近隣県に負けじとさまざまな優遇策を盛り込んでいた、大橋雅史社長の姿が秋田にあった。

横手市も減免税制度や用地取得助成金、除雪機器購入補助など、独自の奨励制度を設定。企業が負担する初期投資を大幅に低減し、「事業のスタートダッシュを応援する態勢を整えている」(横手市商工観光部企業誘致室室長の佐々木公仁氏)とアピールする。

進出後のサポート態勢も充実させている。県産業技術センター(秋田市新屋町)では、蓄積してきた研究成果だ。

含み資産

政府の工業統計調査によると、秋田県の14年製造品出荷額は1兆2149億円。全国43位で、東北では7年連続最下位に沈む。この状況を打開するために、手厚い優遇策を生かす。

大橋社長は「地域の皆さまへの恩返しはこれから。地域社会とともに安定的に成長できる企業を目指す」と、事業拡大に意欲を燃やした。

果や研究者の専門的な知見、整備された研究開発機器を活用できる。企業の相談に応じたり、共同研究を行うことで「支援活動を幅広く展開」(鎌田悟所長)を幅広く展開。人の温かさや暮らしやすさ、快適さなど、数値では測れない良さがある。こうした「含み資産」が拠点進出の大きな判断材料になったようだ。

もっとも、大橋鉄工が愛知県外で初の進出先として秋田を選んだ大きな理由の一つが、高い人間力。誠実で温厚、粘り強く、バイタリティと責任感の強さは、モノづくりに欠かせない要素だ。

